

令和6年度 旭川医科大学 数理データサイエンスAI教育プログラム自己評価

評価の視点	自己評価
プログラムの履修・修得状況	<p>当プログラム対象科目は、医学科では「データサイエンス」「情報リテラシー」、看護学科では「統計学」「情報リテラシー」「保健統計」としている。全ての科目を必修科目として位置付け全員履修したが、「データサイエンス」を3名が単位修得できず、次年度再履修となった。その他の科目では、履修全員（100%）が単位修得に至った。</p>
学修成果	<p>「この科目はどのくらい理解できましたか？」という問いに対し、医学科「データサイエンス：3.3」「情報リテラシー：3.7」、看護学科「統計学：2.5」「情報リテラシー：3.6」「保健統計：3.1」となり、データサイエンスや統計学では3.0を下回る結果になった。</p> <p>また、「科目の一般目標を達成することができましたか」という問いに対し、医学科「データサイエンス：3.4」「情報リテラシー：3.8」、看護学科「統計学：2.9」「情報リテラシー：3.8」「保健統計：3.4」と、統計学以外は3.0を超えることができた。統計学の理解度が今後向上するよう、授業改善をしていきたい。</p> <p>※スコアは各科目平均値、MIN 1-MAX 5。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>授業評価アンケートの「この科目はどのくらい理解できましたか？」という問いに対し、医学科「データサイエンス：3.3」「情報リテラシー：3.7」、看護学科「統計学：2.5」「情報リテラシー：3.6」「保健統計：3.1」との回答を得た。医学科では理解度の充実が見られたが、看護学科では理解度に若干の不安を残した。次年度の授業改善に繋げたい。※スコアは同上。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	<p>授業評価アンケート実施後、その結果を受け教員がコメントをしている（ホームページに掲載）。本プログラムを構成する全ての科目が必修科目として設定されており、対象学年全ての学生が履修することとなっている。また、学生の授業評価アンケート結果は、次年度の学生が授業内容の概要を把握する資料として参考にし、受講しやすい授業としている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>医学科2科目、看護学科3科目を今後もプログラム対象の必修科目として位置付け、履修者の理解度向上のため授業改善を重ね、単位修得が100%達成できるよう取り組んでいく。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>令和7年度も開催される医学科/看護学科教育プログラム評価委員会で、当該委員会の構成員である学外有識者や旭川医科大学病院長を通じた意見を集約し、カリキュラム改善に落とし込んでいく。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>医療現場における数理・データサイエンス・AI活用の重要性を周知するとともに、学ぶ喜びや楽しさを伝えることも大切にする。また、学生が最先端の事例に興味を引き、自らも深く学ぼうとする講義内容となるように工夫している。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「わかりやすい」授業とすること	<p>授業評価アンケートの「あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか」という問いに対し、医学科「データサイエンス：3.5」「情報リテラシー：3.8」、看護学科「統計学：2.4」「情報リテラシー：3.5」「保健統計：3.2」と回答された。「統計学」では難易度が高く感じられたようだが、他科目では適切な難易度で授業実施ができた。※スコアは同上。</p>